

平成23年度 厚岸湖・別寒辺牛湿原学術研究奨励補助金 報告書（要旨）

## 急速に増加するキタアメリカフジツボ：在来種との相互作用の解明

萩野友聡<sup>1</sup>・Alam AKM Rashidul<sup>1</sup>・野田隆史<sup>2</sup>

<sup>1</sup>北海道大学大学院環境科学院

<sup>2</sup>北海道大学大学院地球環境科学研究院

キタアメリカフジツボはアメリカ西岸（アラスカ～カリフォルニア）を原産とする外来種であり、2000年北日本で初めて発見された。発見当初、北海道では広尾以南の太平洋沿岸で確認され、厚岸沿岸までは分布していなかった。しかし、遅くとも2006年には道東地方に侵入し、2010年にはすでに釧路から根室にかけての広範囲で分布が確認されている。これまでの侵入の過程と在来種の相互作用を明らかにすることは、今後の道東、さらには他地域への分布拡大過程の予測と、在来の潮間帯群集に及ぼす影響を明らかにする上で重要である。またそれとともに、侵入初期の個体群動態のパターンとプロセスについての研究はいまだ十分ではなく、また海洋生物では特に知見が乏しいため、生物侵入の性質を理解するという基礎研究においても重要である。侵入の初期状態は侵入前線の外側の調査を継続して行うことで評価できる。拡大しつつあるキタアメリカフジツボの分布の前線は2000年には広尾に位置していた。それゆえ、このフジツボの個体群調査は2002年より、分布前線の外側である、広尾より東方の五つの海岸から調査を始めた。本研究では、道東沿岸におけるキタアメリカフジツボの侵入過程と在来種の相互作用を明らかにすることを目的に、1) キタアメリカフジツボの分布はどのように拡大してきたか、2) 在来固着生物（キタイワフジツボ、フクロフノリ、マツモ）はキタアメリカフジツボの侵入をくいとめる効果があるか、という二つの項目について検証を行った。主な結果は以下のとおりである。

1. キタアメリカフジツボの分布はどのように拡大してきたか？
  - 2006年に最初に入岸学に出現、その後は東方へ分布を拡大
  - 分布域の拡大スピードは約20 km/年
2. 在来固着生物はキタアメリカフジツボの侵入をくいとめる効果があるか？
  - フクロフノリによる住み着きへの効果を除いて検出されなかった

これらの結果は、キタアメリカフジツボは道東地方では2000年より着実に分布を広がり続けており、在来種による侵入を食い止める効果の弱さもそれを裏付けていることを示した。今後、本種の被度がさらに増加することになれば在来の潮間帯群集に大きな影響を及ぼす可能性があり、本種の増加が在来群集へ及ぼす影響を明らかにする必要がある。